

# 都市木質化に関するインタビュー報告

2016年1月～3月実施

2016.5.27

みなとモデル事務局

## 《インタビュー実施概要》

実施期間 : 2016年1月14日 (木) ~2016年3月17日 (木)

実施対象 : みなとモデル認証物件担当設計士および、都市建設・建築関係者

調査方法 : 訪問インタビュー+記入式アンケート

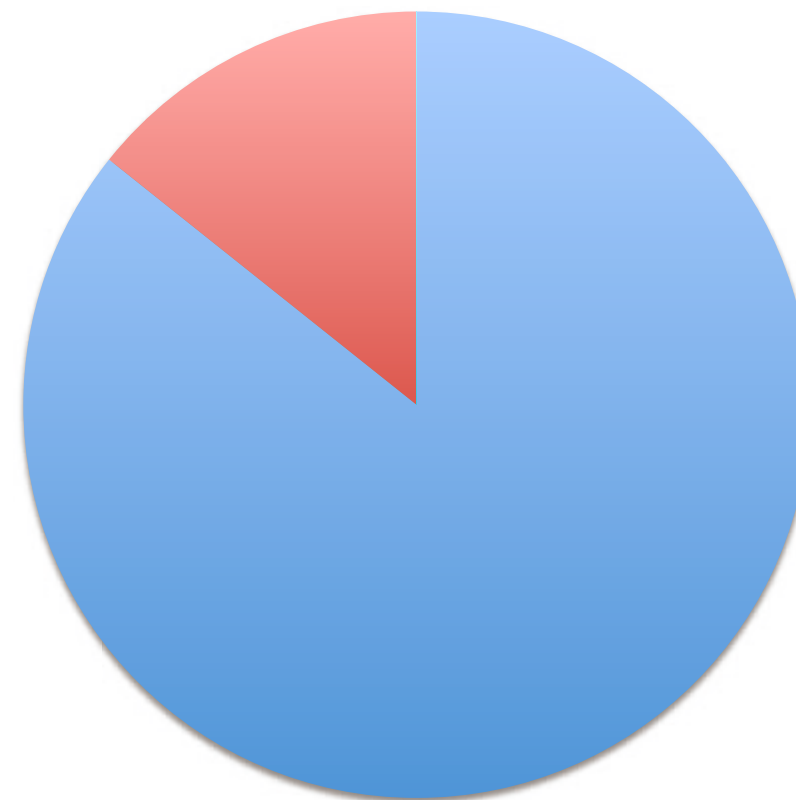
協力者数 : 10社 (インタビュー協力19名、うちアンケート協力14名)

協力者内訳 :	ゼネコン (設計部門)	3社	5名	(アンケート4名)
	設計専門会社	4社	10名	(アンケート7名)
	個人設計事務所	1社	1名	(アンケート1名)
	木質専門施工会社	1社	1名	(アンケート1名)
	デベロッパー	1社	2名	(アンケート1名)

Q1: 今後、大型建築物を設計・施工するにあたり、木質を取り入れていくことについて積極的に取り組みたいですか？

100% = 14名

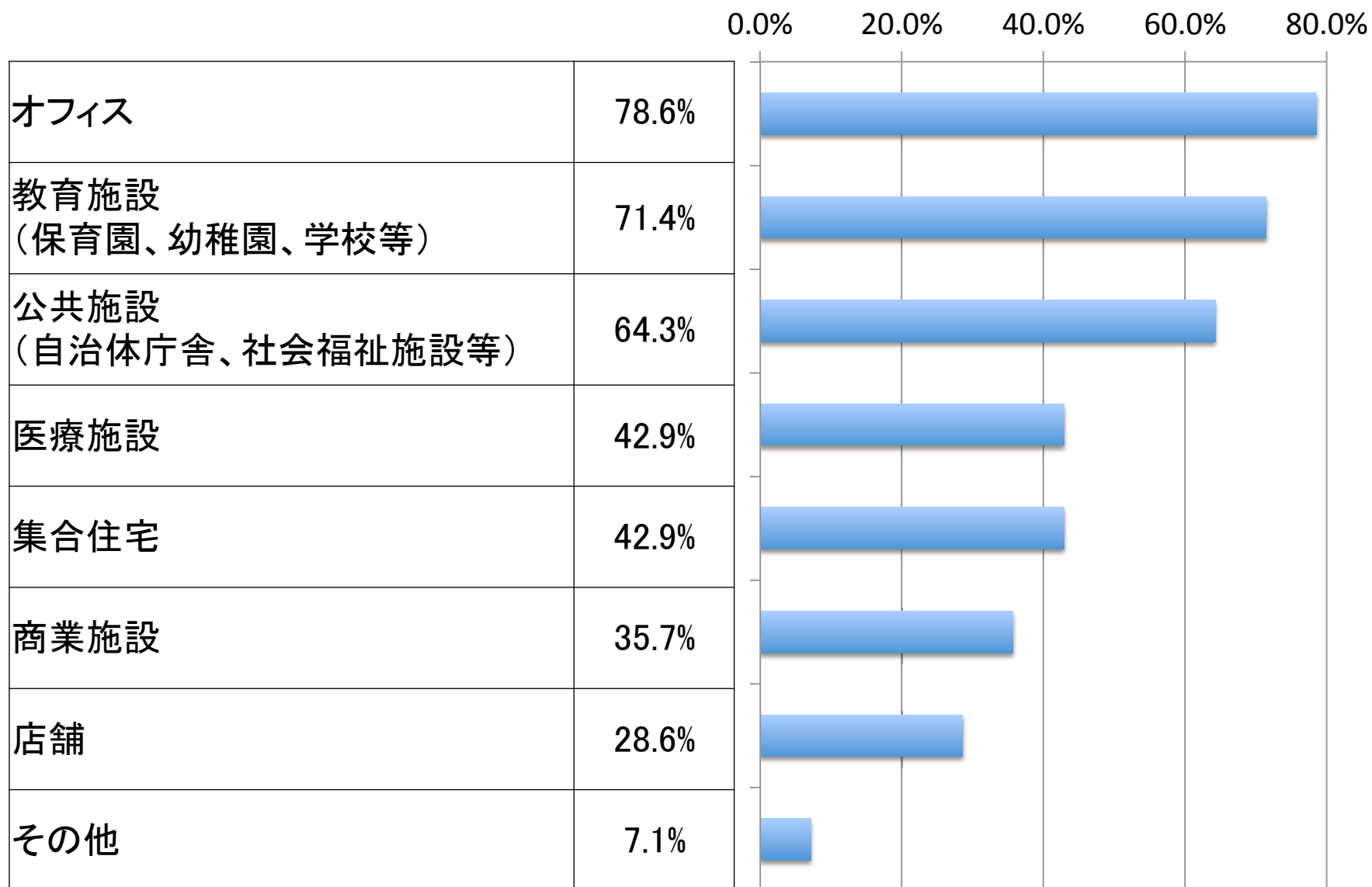
1	非常にそう思う	85.7%
2	ややそう思う	14.3%
3	どちらともいえない	0.0%
4	あまりそう思わない	0.0%
5	そう思わない	0.0%



- 1 非常にそう思う
- 2 ややそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりそう思わない
- 5 そう思わない

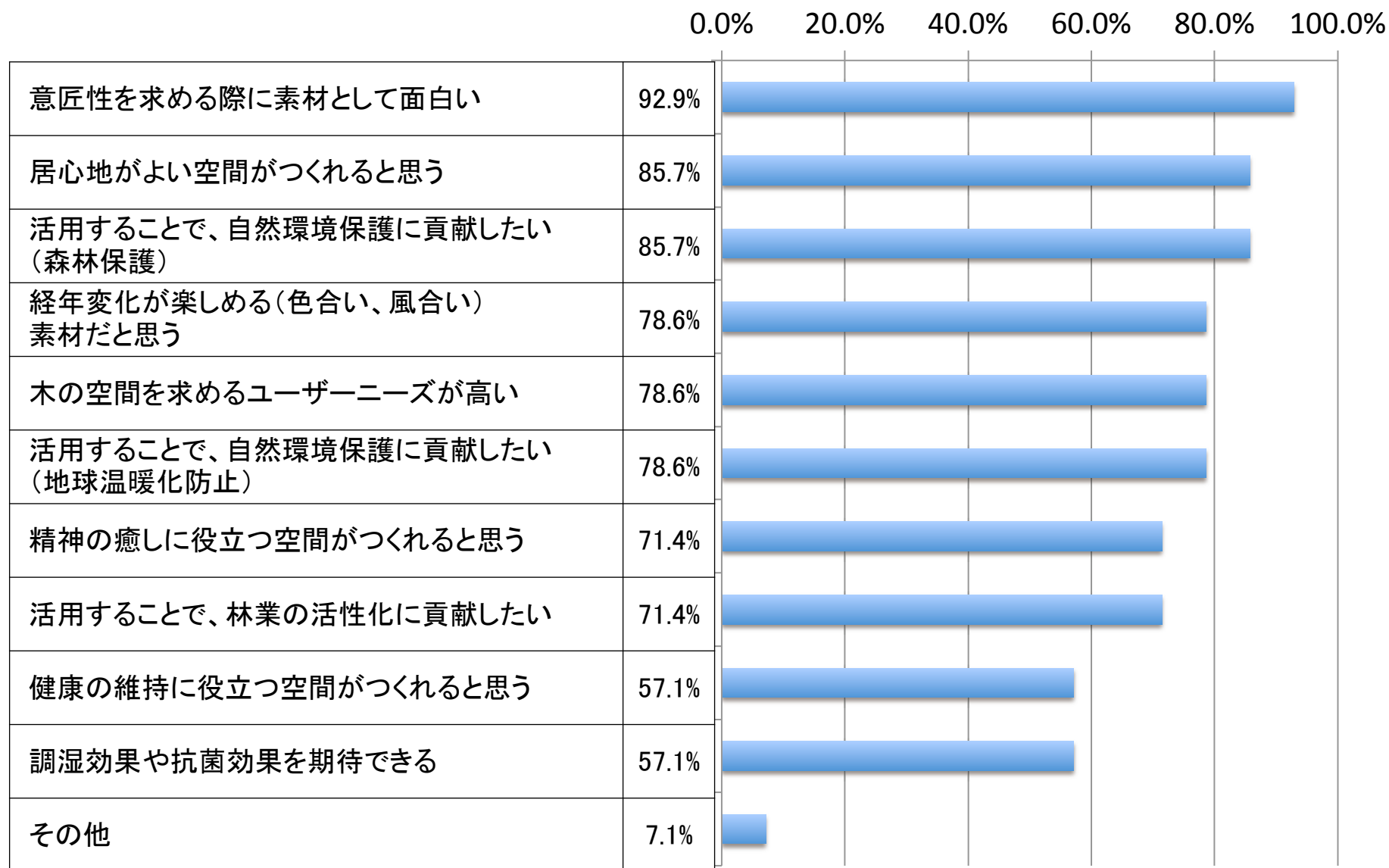
## Q2: 木質化させたいと思う建物はいずれですか？

100% = 14名



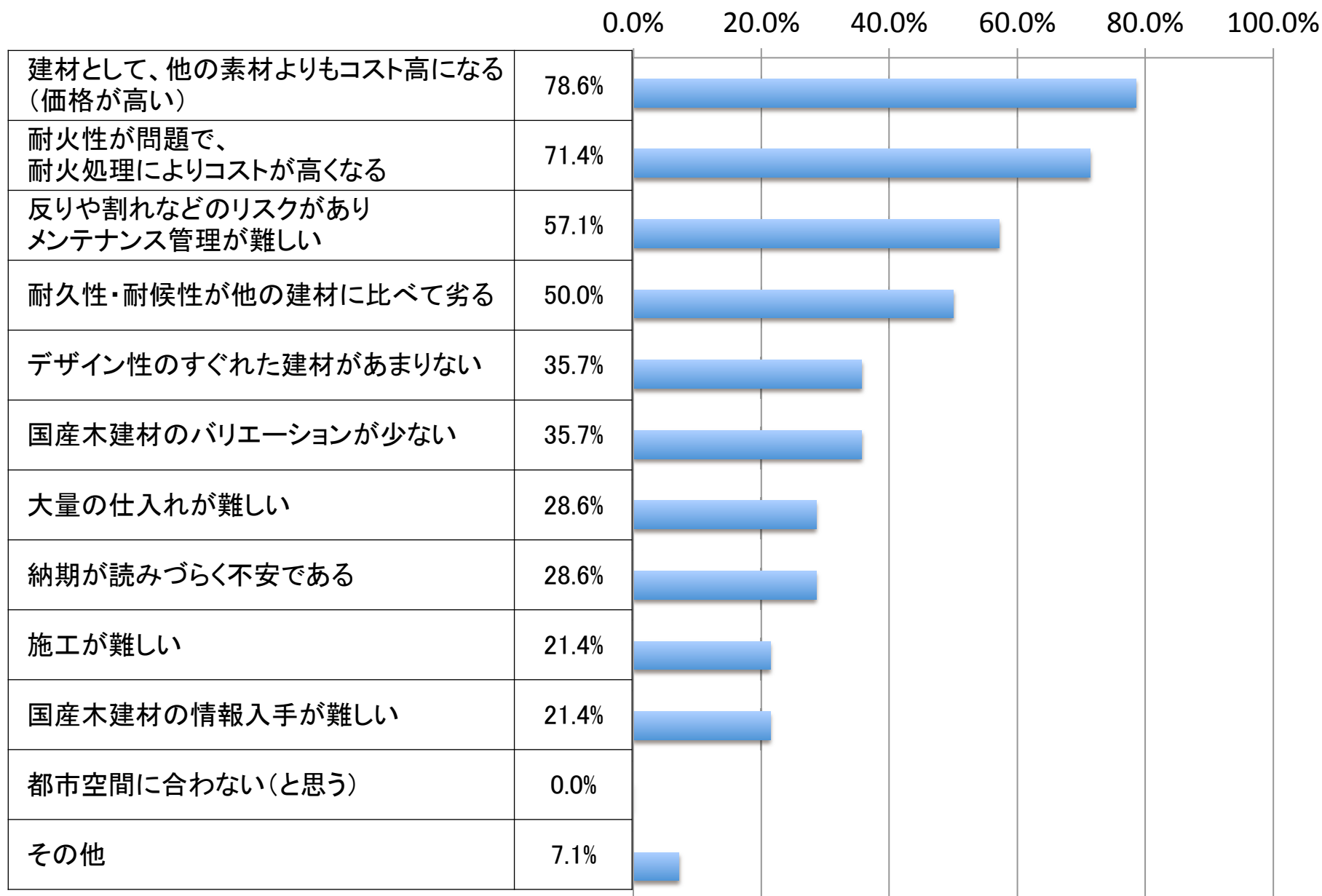
### Q3: 取り組みたい理由は何ですか？

100% = 14名



# Q4: 取り組みたくない理由(または木質化の問題点)は何ですか？

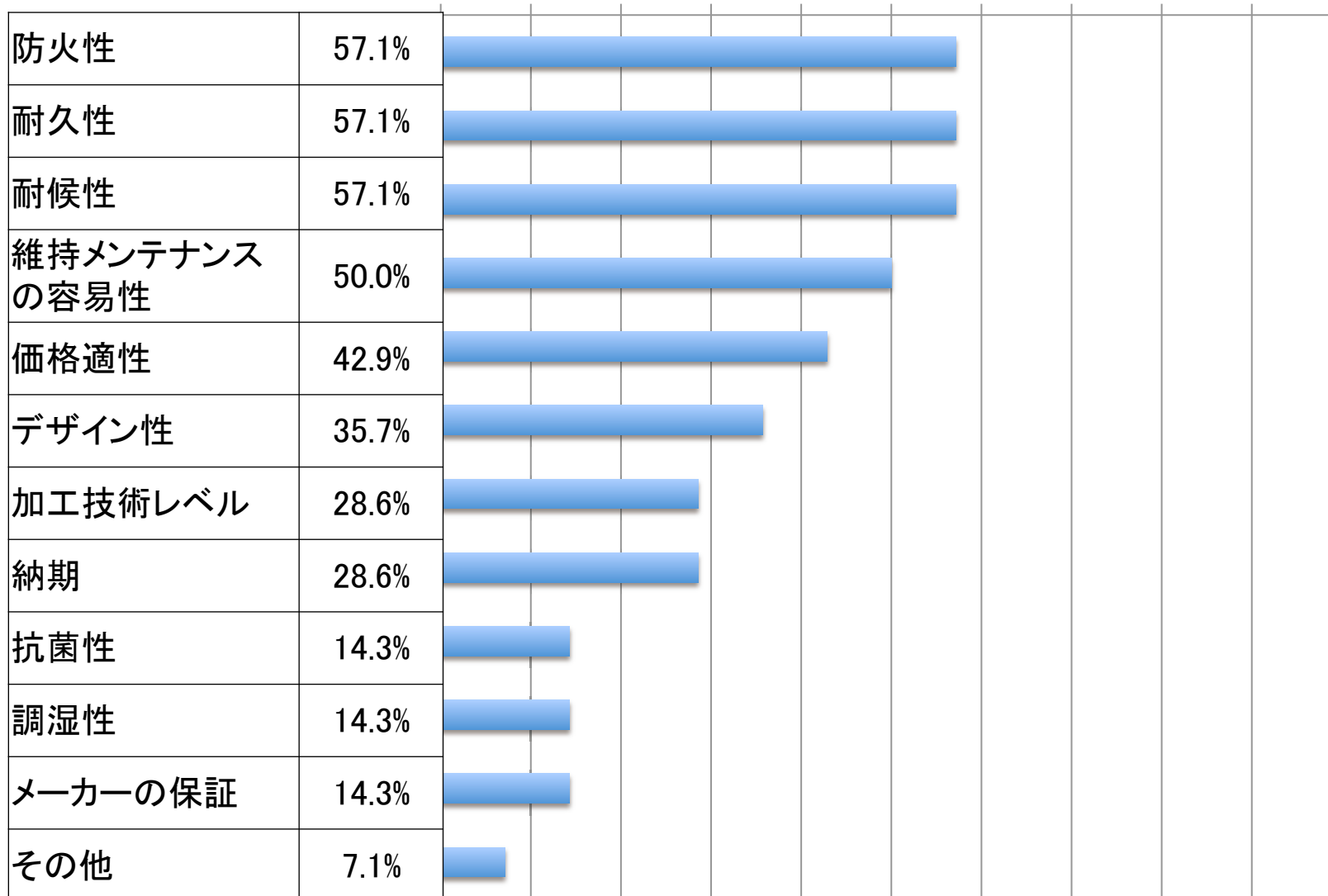
100% = 14名



# Q5: 木質建材に求めるものはなんですか？

100% = 14名

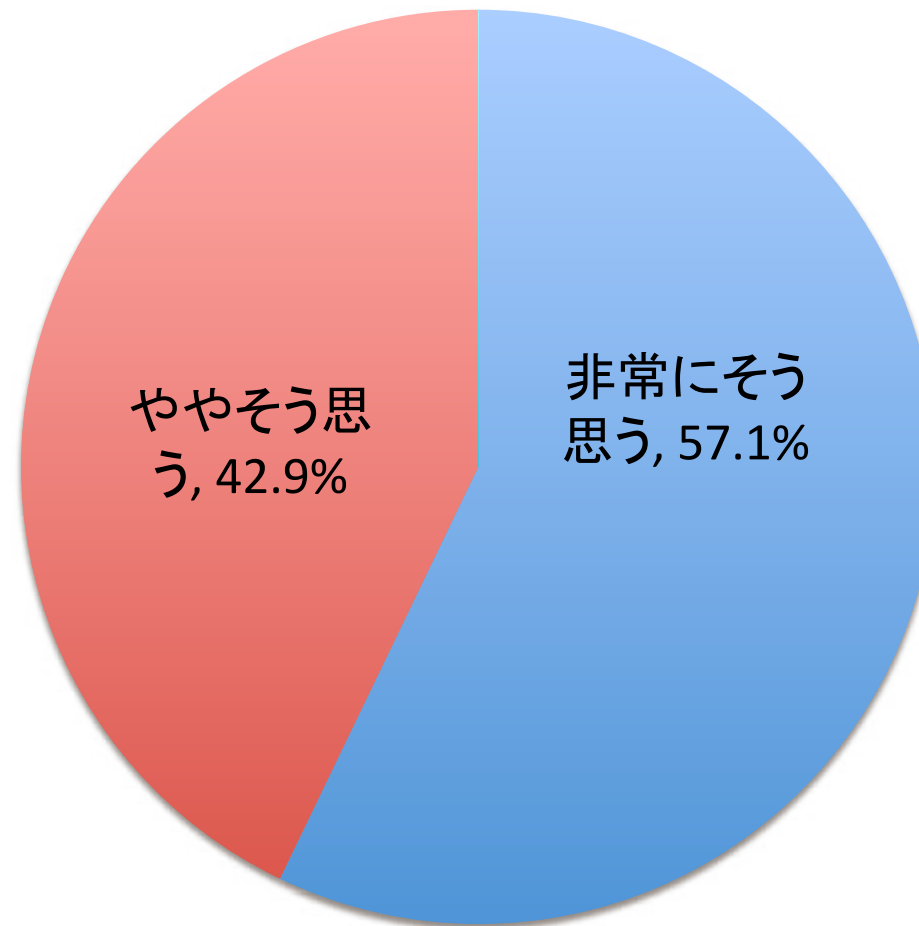
0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



Q6:木質化することで、建物の付加価値はアップすると思いますか？  
Q6-2:「1」または「2」と答えたポイントは？

100% = 14名

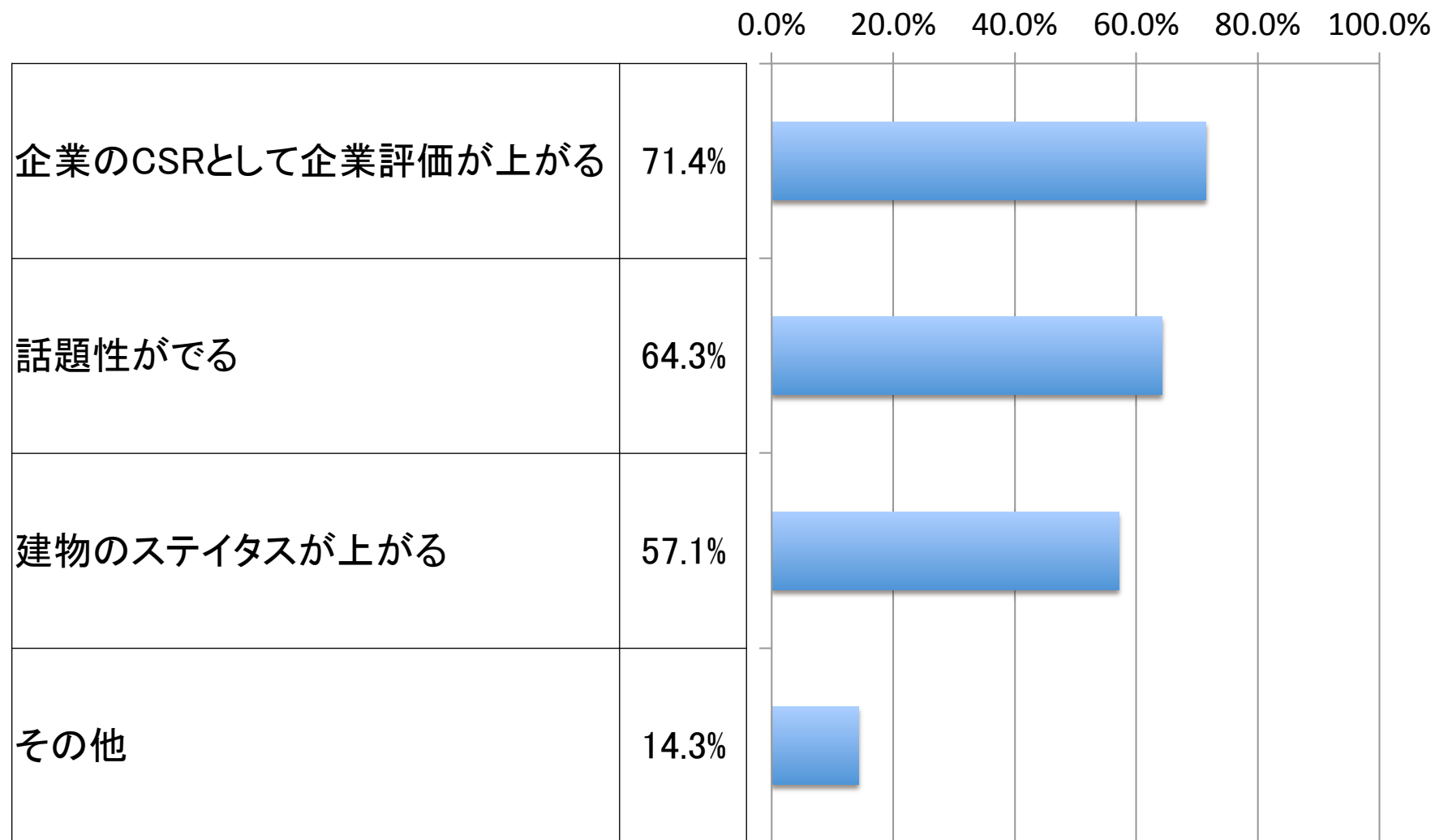
非常にそう思う	57.1%
ややそう思う	42.9%
どちらともいえない	0.0%
あまりそう思わない	0.0%
そう思わない	0.0%





Q6:木質化することで、建物の付加価値はアップすると思いますか？  
Q6-2:「1」または「2」と答えたポイントは？

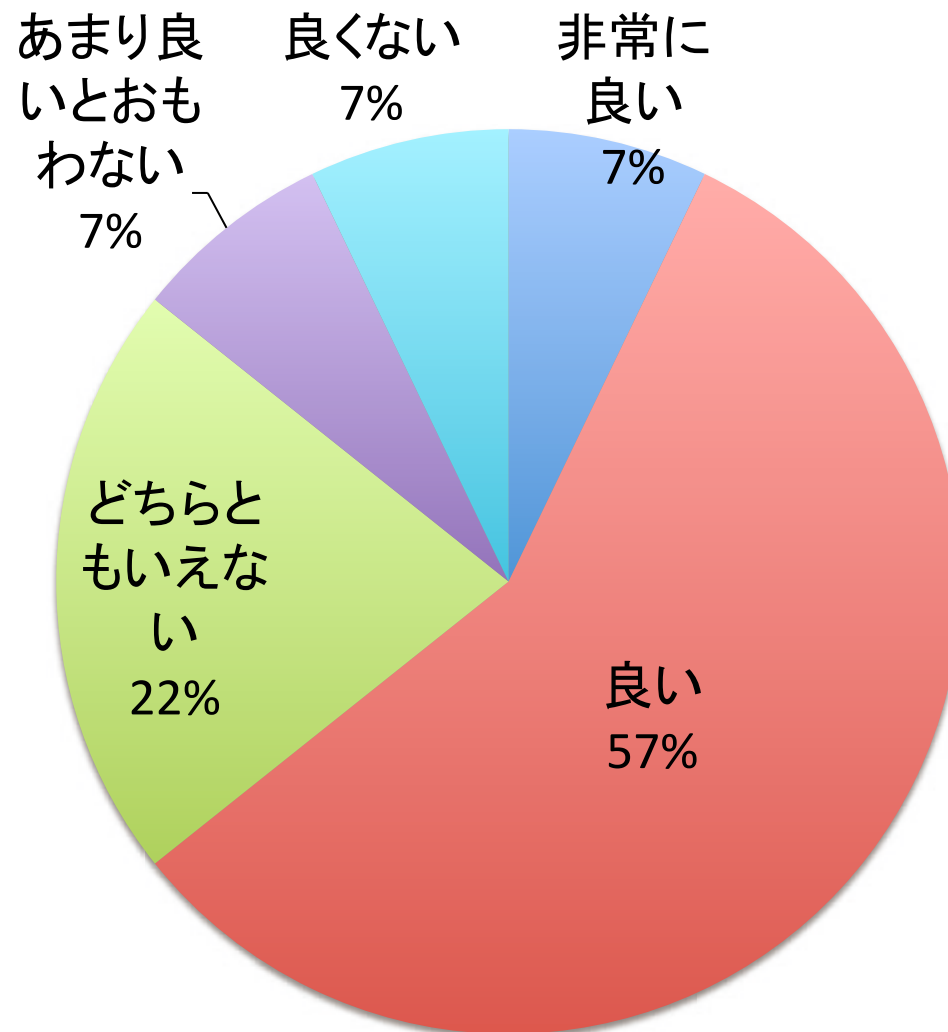
100% = 14名



Q7: 木材を不燃、防腐、圧密、熱処理などを施して使用することについてどう思いますか？

100% = 14名

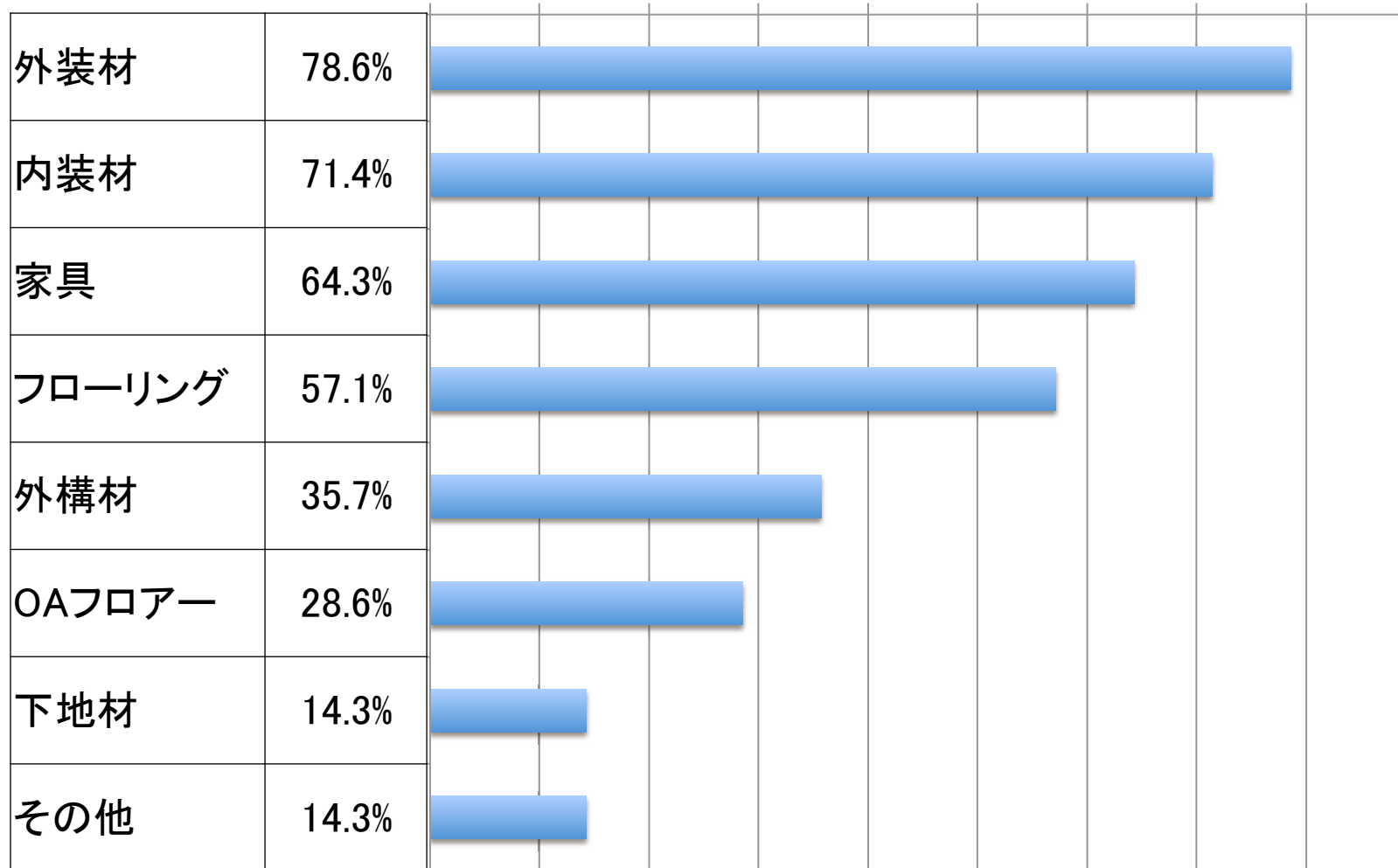
非常に良い	7.1%
良い	57.1%
どちらともいえない	21.4%
あまり良いとおもわない	7.1%
良くない	7.1%



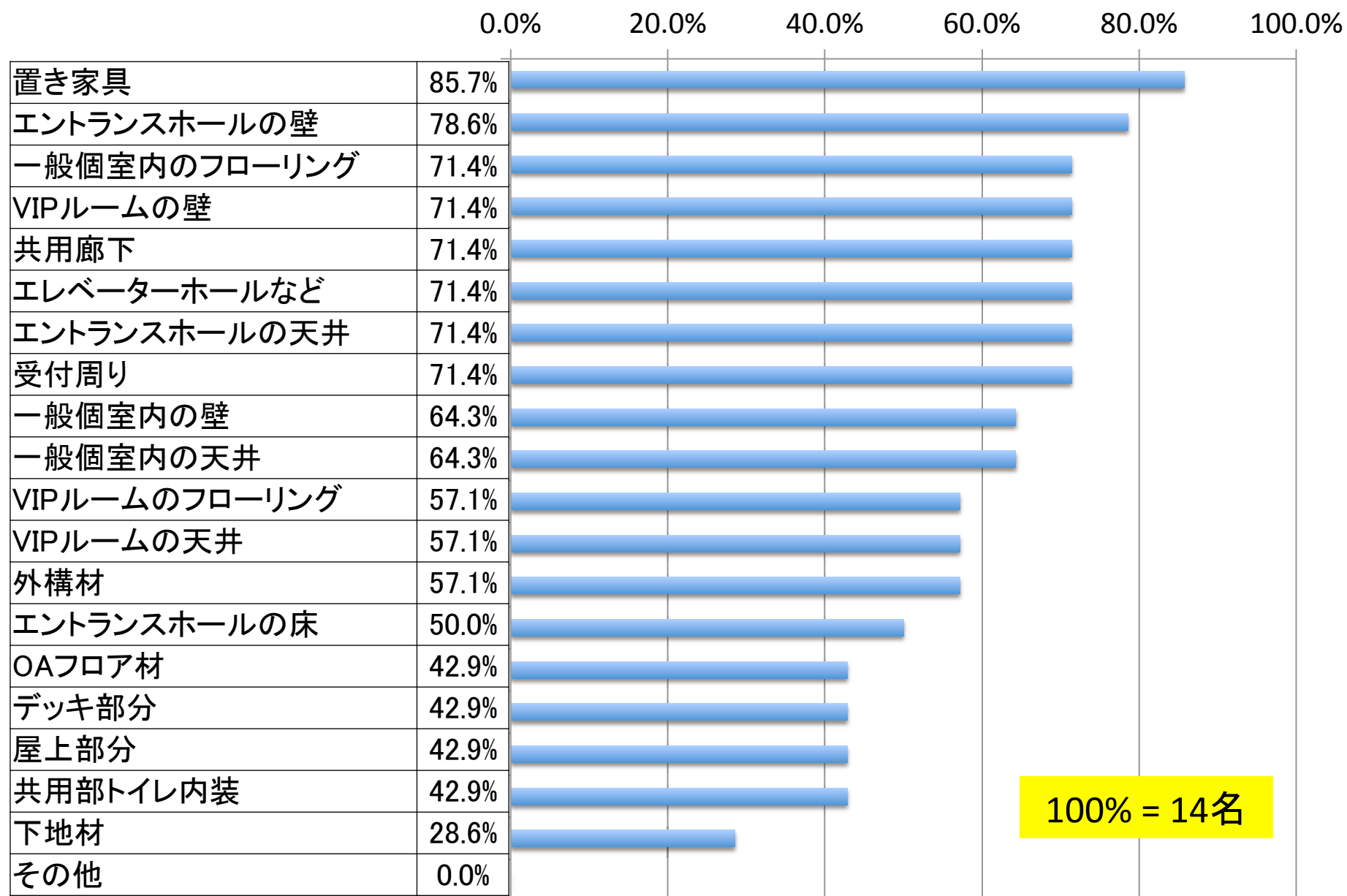
# Q8:木質化を進めるにあたって、使ってみたい部位は？

100% = 14名

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%

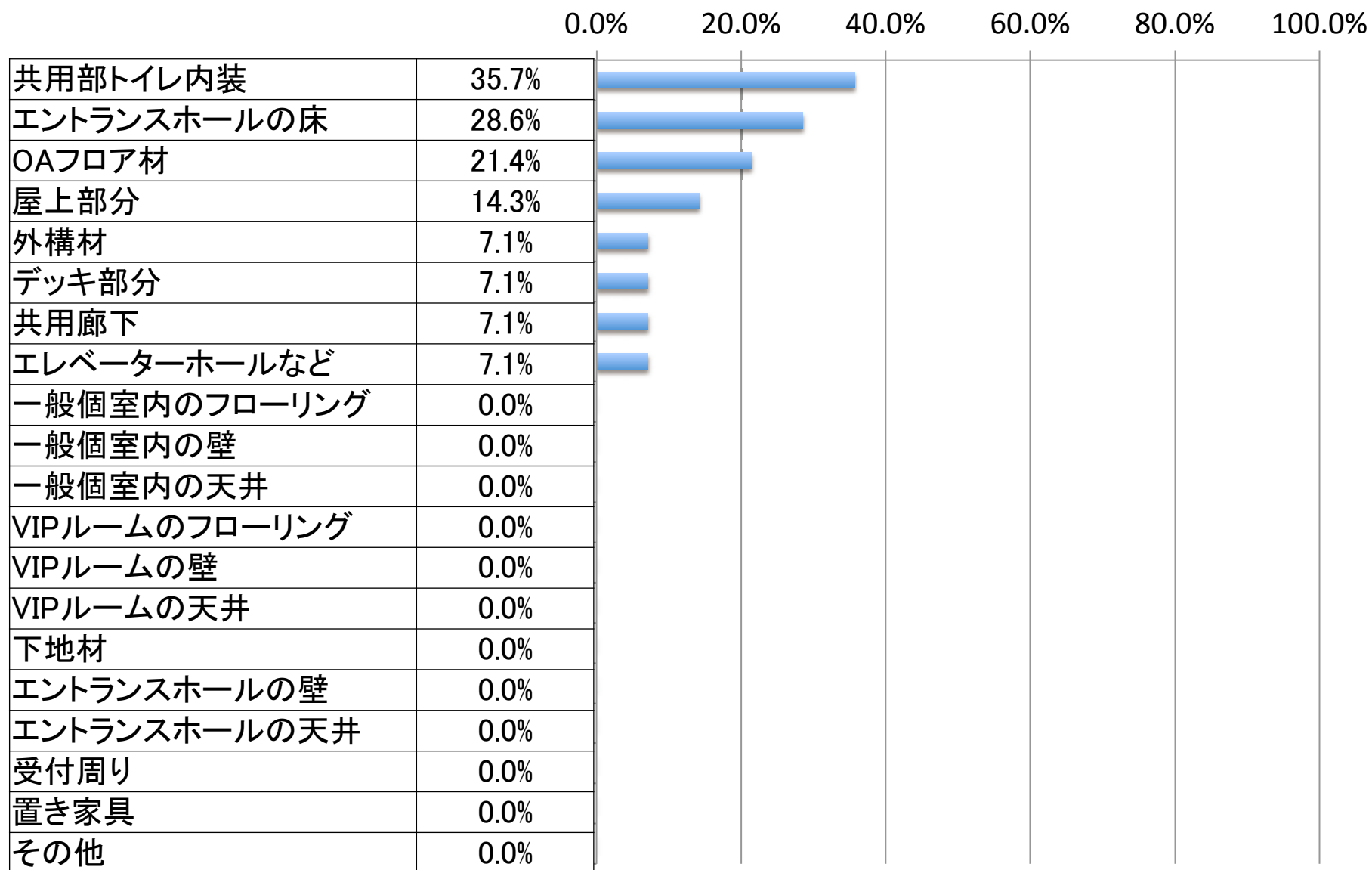


## Q9-B: 木質化を進めるにあたって、ぜひ使ってみたい部位は？



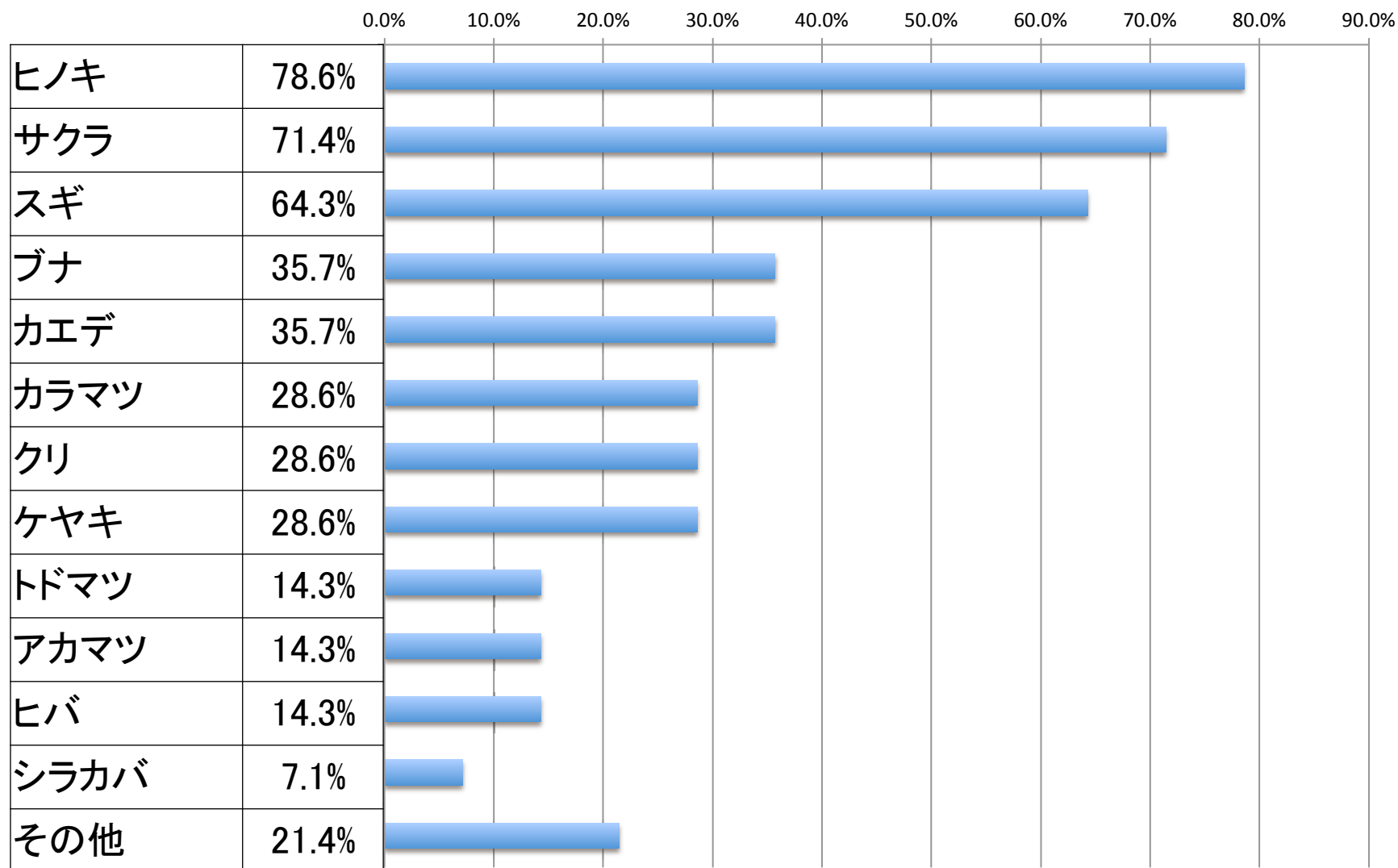
# Q9-c: 木質化を進めるにあたって、使いたくない部位は？

100% = 14名



# Q10: 木質化を進めるにあたって、国産材で使ってみたい樹種は？

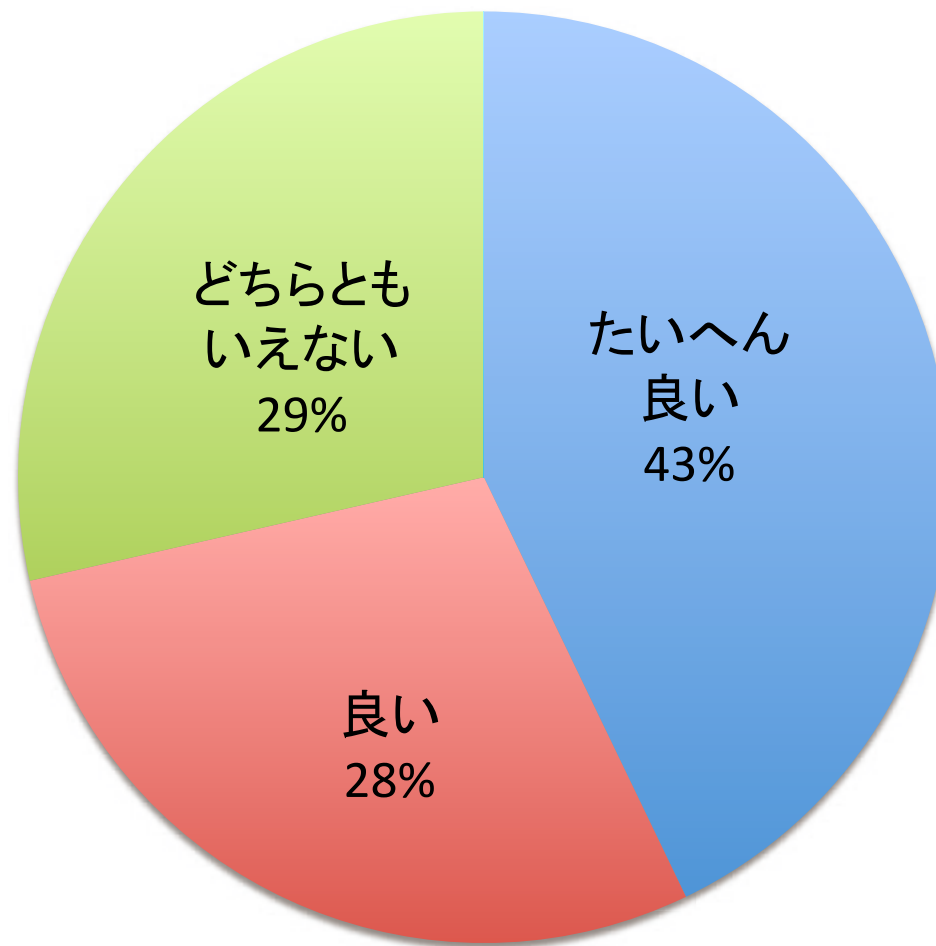
100% = 14名



# Q11: 上階層に木材を多用することについてどう思いますか？

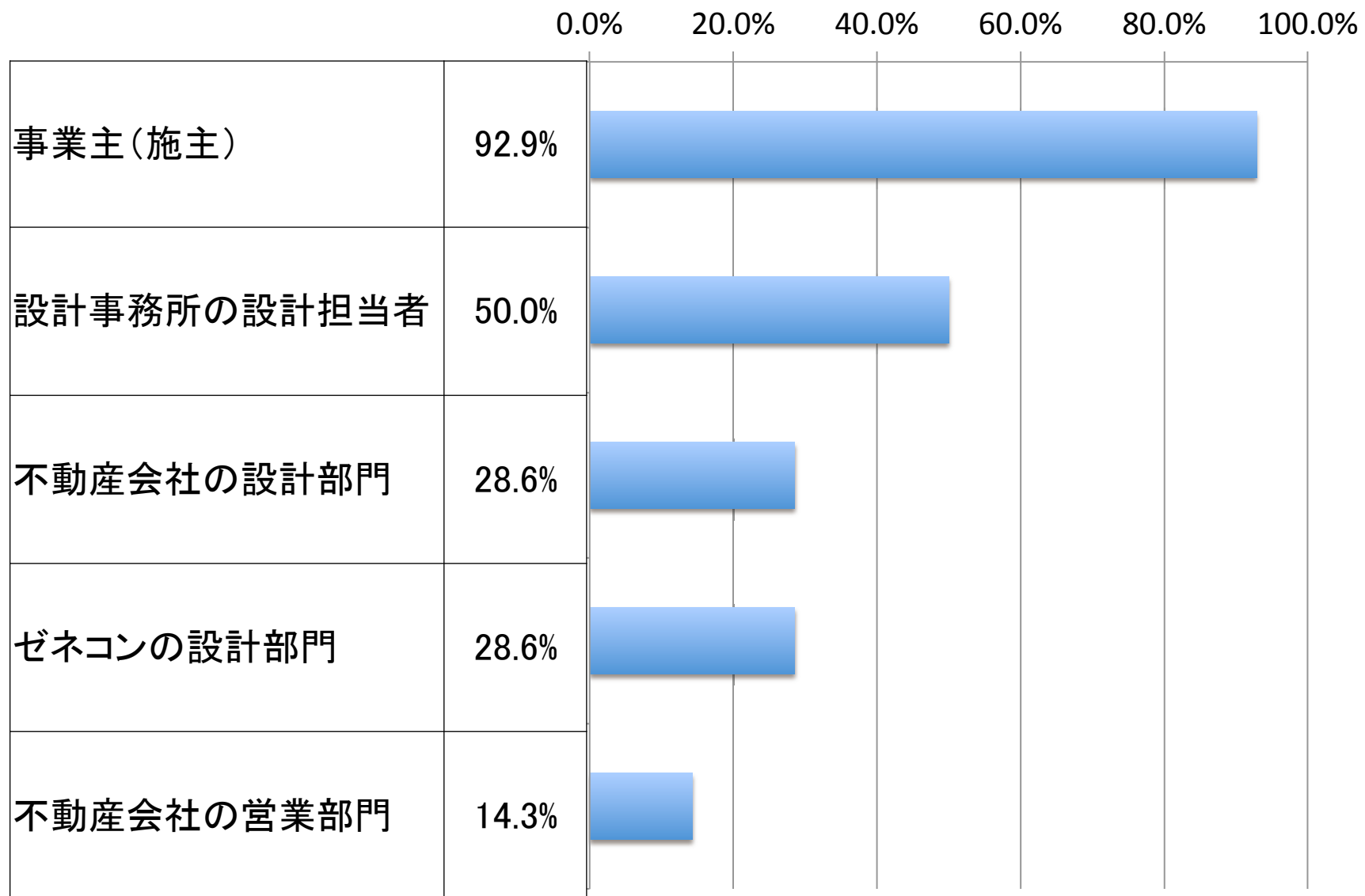
100% = 14名

たいへん良い	42.9%
良い	28.6%
どちらともいえない	28.6%
あまり良くない	0.0%
良くない	0.0%



# Q12: 都市建築物の木質化推進の意思決定をする上で重要なキーマンは誰だと思われますか？

100% = 14名

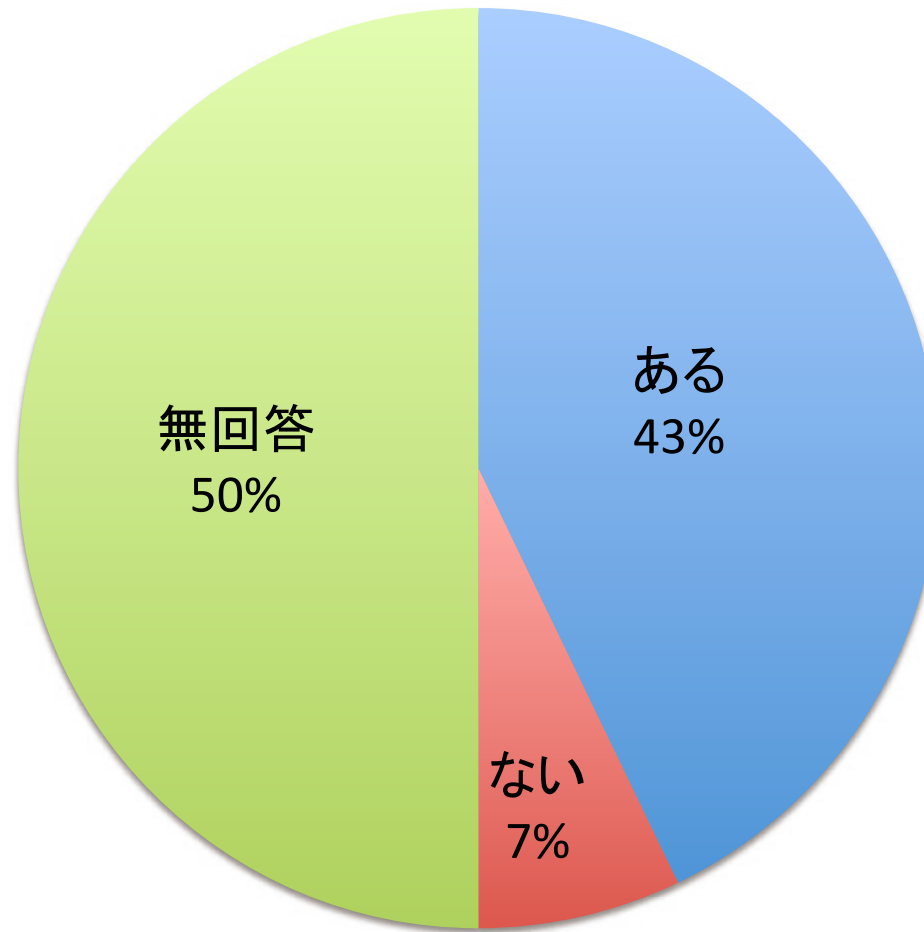




Q13: 情報収集を意識して行う担当部門や担当者さんはおられますか。

100% = 14名

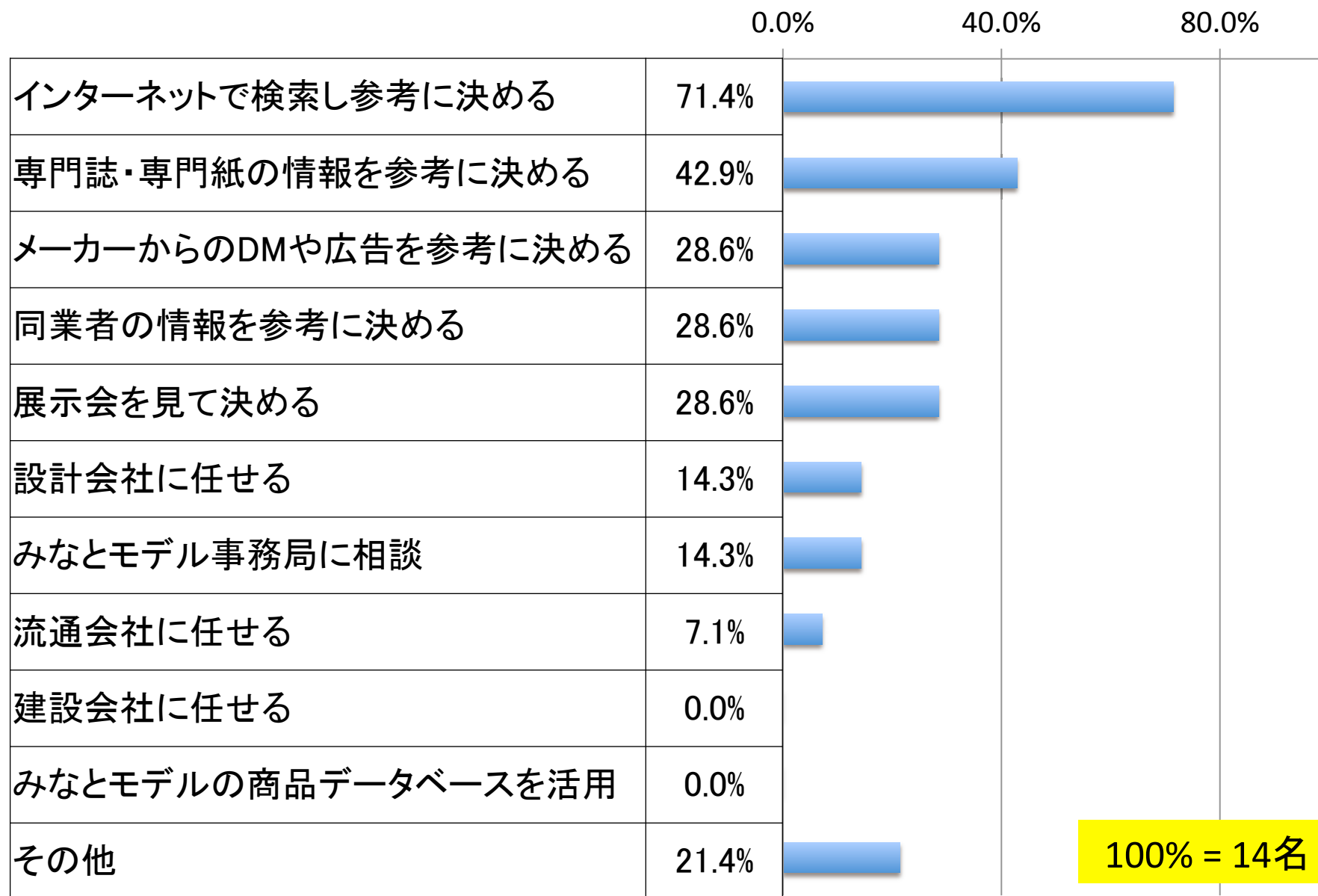
ある	42.9%
ない	7.1%
無回答	50.0%



Q14: 建材情報は、どの会社の誰のところに届くことが重要だと思われますか？(フリーアンサー)

- 設計担当者
- 設計事務所に対して営業して頂くことが最重要だと思います、郵送だけでなくプレゼンを行うこと。
- 工務店
- 設計を担当される方すべて
- デベロッパーの設計部の設計士、ゼネコンの設計部の設計士、設計事務所の設計士など。
- 設計事務所の設計担当者

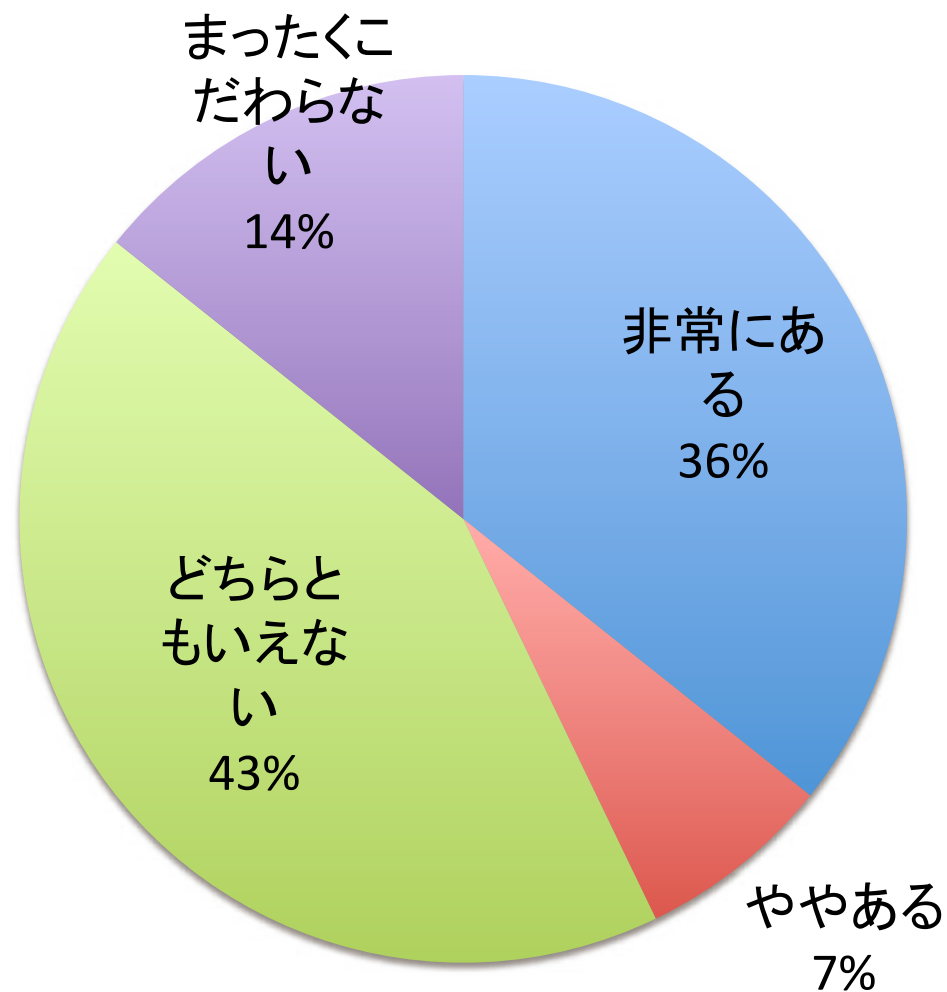
## Q15:木質建材の情報源どのように集めますか？



# Q16: 建築材料のトレーサビリティ(産地)に対してこだわりはありますか？

100% = 14名

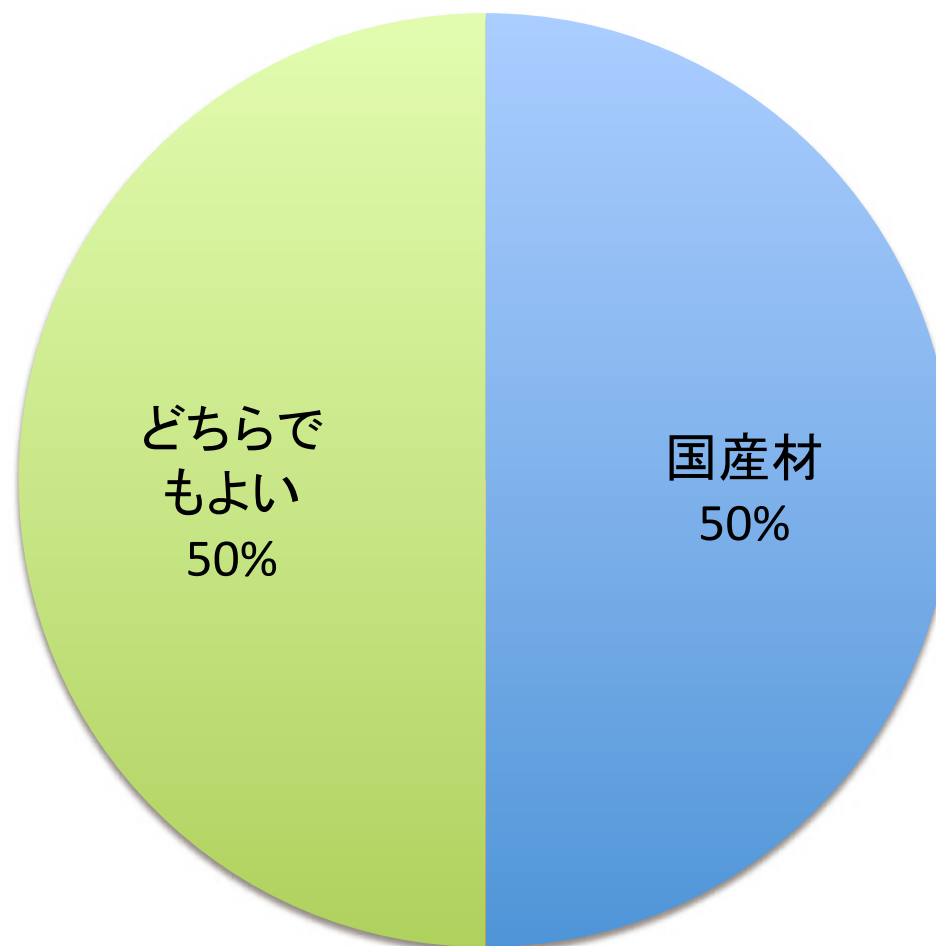
非常にある	35.7%
ややある	7.1%
どちらともいえない	42.9%
まったくこだわらない	14.3%



Q17:木質化を進めるとして、外材と国産材とではどちらを使いたいですか？

100% = 14名

国産材	50.0%
外材	0.0%
どちらでもよい	50.0%



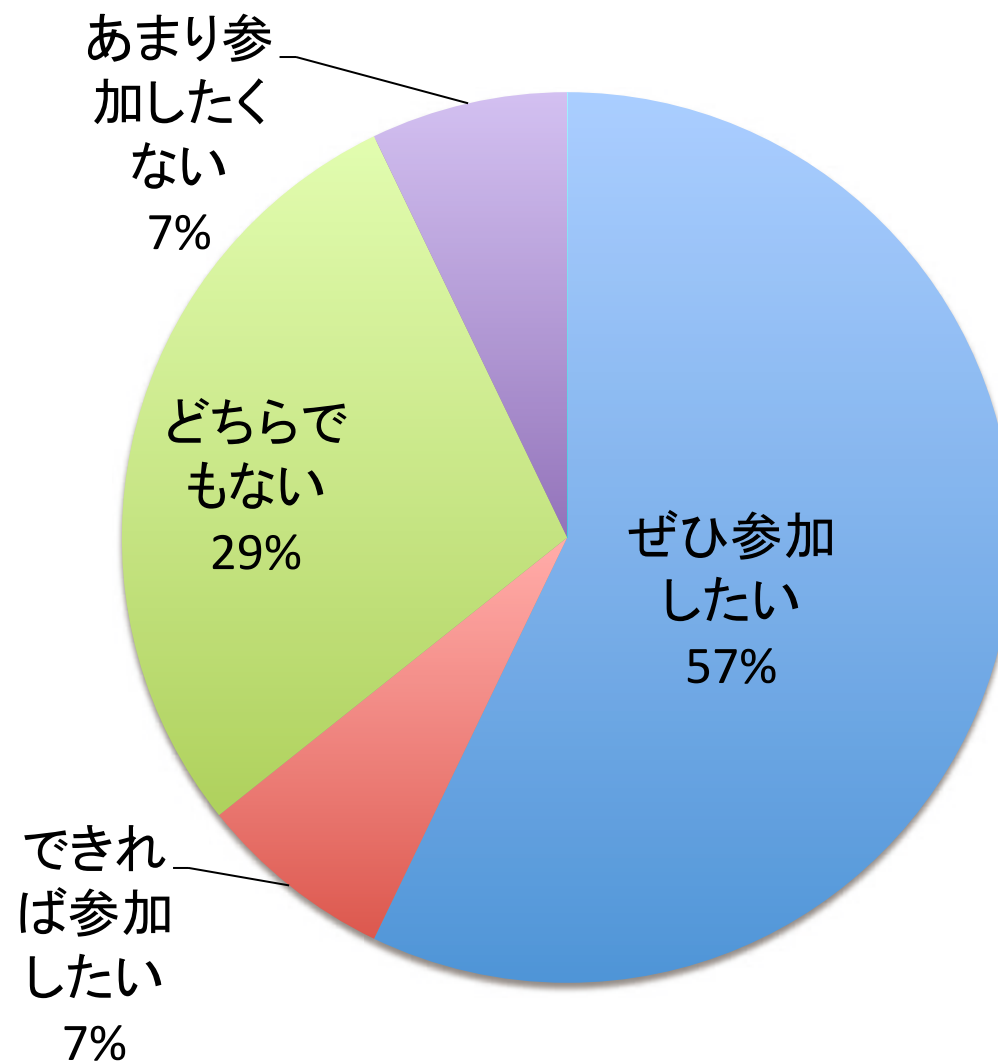
Q18:木質化が進めづらい(進みづらい)事情などあれば具体的に教えてください。(フリーアンサー)

- 法的な内装制限規制があるのでどうしてもRC工法になってしまう。
- コストが高いため、施主側の了解を得にくいため
- コスト面、法令面、メンテナンス性が主となるが、何よりもコスト面の要因が大きいと思われる。
- 顧客の木材への関心の低さ
- 社内の木材への関心の低さ
- 現在では改善されてきましたが、日本国内が不景気な状況では、木工事＝付加価値＝削減できる内容、との考えが蔓延し衰退していました。景気を維持するのはもちろんのこと、今後は木質化が新たな付加価値を創造できるアイデアも必要ではないでしょうか。
- 法規制によるコストの問題
- 施主のコスト意識
- コスト、調達期間、不燃、耐火、メンテナンス、耐久性

# Q19: 林産現場や、建材製造メーカーの視察などに参加してみたいと思いますか？

100% = 14名

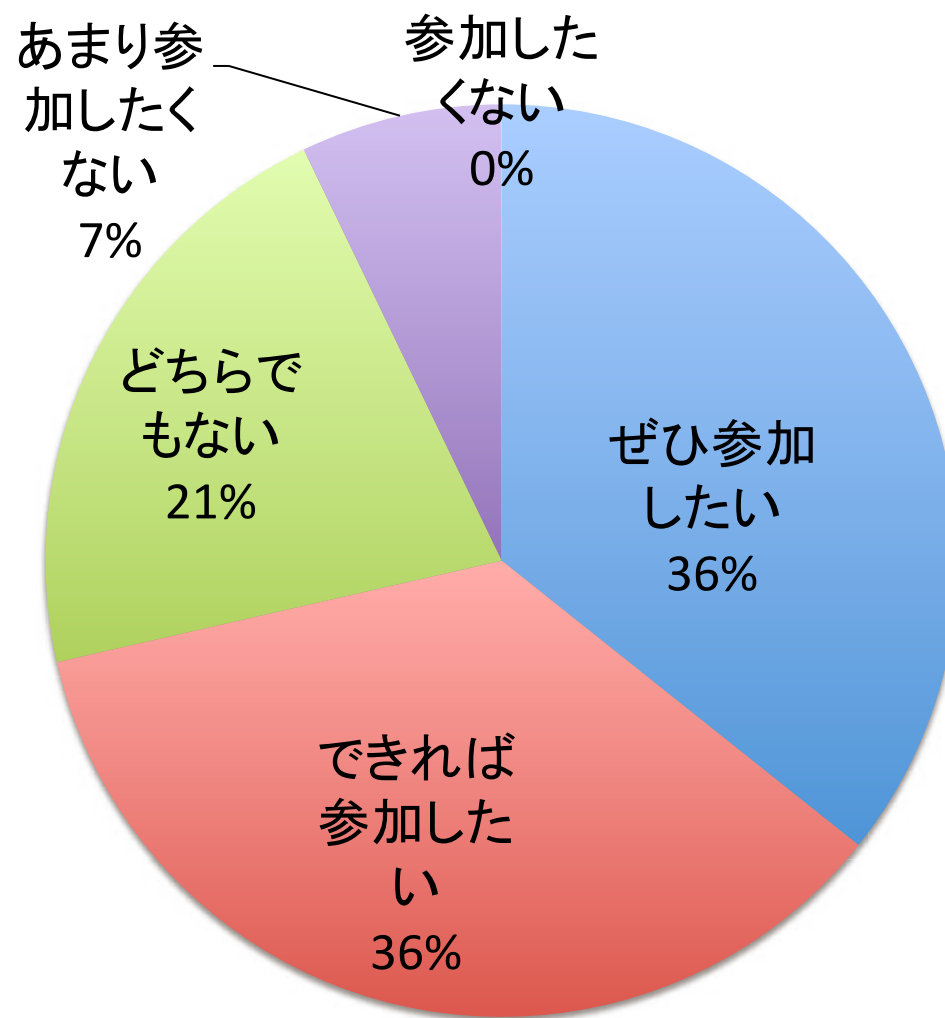
ぜひ参加したい	57.1%
できれば参加したい	7.1%
どちらでもない	28.6%
あまり参加したくない	7.1%
参加したくない	0.0%



Q20: 都市木質化や木質化建材情報の収集のためのセミナーや製品展示会に参加してみたいですか？

100% = 14名

ぜひ参加したい	35.7%
できれば参加したい	35.7%
どちらでもない	21.4%
あまり参加したくない	7.1%
参加したくない	0.0%

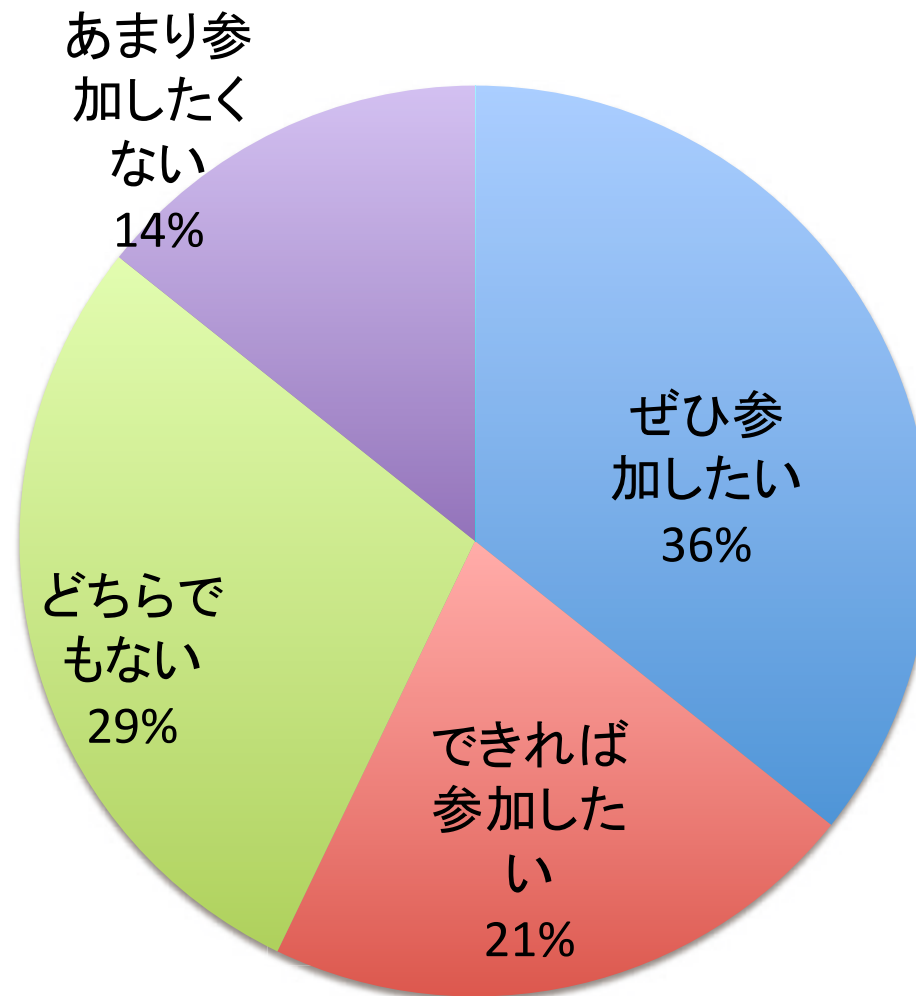




# Q21: 都市木質化推進協議会のような情報交換の場があれば参加したいですか？

100% = 14名

ぜひ参加したい	35.7%
できれば参加したい	21.4%
どちらでもない	28.6%
あまり参加したくない	14.3%
参加したくない	0.0%



## Q22: みなとモデル二酸化炭素固定認証制度を経験してどのように感じましたか？

- 木材の利用は、特に画一化するオフィスビルの商品価値に対して、新たな付加価値となり得ると感じました。
- オフィスビルに入居する企業に制度活用のメリットが広く認識され、より革新的な計画が生まれやすくなることを願います。
- 業務負担はさほどではなかった。
- みなとモデルの申請書式で記入が難しいのがあった。
- みなとモデルに参加できてよかった。木材への思いがある中で、設計としては木を使いたいのみだけれど、どのプロジェクトもとにかくコスト安を求めらる中で、木を使う大義名分がたち、制約がありながらもデザインのヒントになったりする。設計当初から意識してできるとよかったと思う。
- この制度の社会認知度がより上がり、CSR的效果が高まれば、より効果的に木材の使う意義も上がるような気がします。
- 地球温暖化防止の観点、国内林業の活性化の為に良い事だと考えます。ただ導入するにあたっては、他の建材と比べて価格、耐久性等で劣るため、実際に使用するのはハードルが高いと感じます。今回は事業主、設計者、施工者が同一でしたので上手く運ぶことが出来ました。(実際は内部で色々協議で問題定義がありました)

- 国産材の使用を促すこと、森林整備、社会的貢献は多々感じます。林野庁、都、等の他の制度との整合や統一を図っていただきたいです。（CO2固定量算定式等）
- 制度の主旨は非常に共感できるが、コスト面で事業者の理解を得る事に非常に労力を要した。
- 事業者側でも、CSRを意識されている企業も多く、制度の普及及び実績が目に見えるようになって初めて浸透していくように思われた。
- 制度自体の成功は、自治体及び設計者の地道かつ継続的な啓蒙が必要と思われる。
- 設計者、施工者ともみなとモデルが初めての経験だったので、国産材を積極的に使うということでの、勉強、工夫、様々な加工についての情報収集、情報共有が必要であり苦労した。
- みなとモデル対応物件で、それなりの努力をした案件については、もっと宣伝効果があるといいかもしれない。
- ある程度設計者、施工者の経験者が増えてきたので情報共有（いろいろなレベルがあると思う。単なる苦労話からディテールの図面等）が今後あると、効率的に対応しやすいかもしれない。
- 木材製品の製造から取付までを、自社で一括しておこなえる当社にとって、非常に有意義な制度で、高い優位性を得ることができました。

- 私共としては、あまり制度を緩めるのではなく、厳しく運営して頂いても結構ですので、建築主に対して木材の積極的な利用を働きかけて頂きたいと思います。
- 提案と要望ですが、①認定事業者に対して「認定証」のようなものを発行頂けると営業ツールとして活用できます。②事業者の格付け等はいかがでしょうか？ ☆の数等で優良な事業者を認定して頂けると良いかと思えます。
- 他の自治体に先駆けた制度で素晴らしいと思う。
- 設計者が木のことを知らないので、提案してもコスト意識から不採用になることが多く、実を結ぶことが少なく負担感を感じる。
- 社会的意義があると思う。
- A工事でも木質化をすすめるためには、建築規模によって下地での使用可能の率を変えるようにすれば良いと思う。
- 社会的意義のある先進的な制度であると考えます。

# アンケートとインタビュー から見えてきた課題

## ①施主理解の促進

最も発言力の強いキーマンである施主（事業主）への理解促進が重要課題である。

## ②情報共有の機会創出

木材を取り巻く様々な状況や情報について、川上、川中、川下、自治体など様々な立場の相互理解を促進する機会が重要である。

## ③情報の質および経路の整備

建材情報をさらに収集・整理をした上で、適切な情報伝達経路を用いて伝えることが重要である。

# インタビュー抄録

《木質化に取り組んだ経緯》

《木質化への思い》

《木質化設計においてこだわった点》

《木質化を実行してよかったポイント》

《木質化を実行して課題になった、困ったポイント・苦勞したポイント》

《建材情報（特に木質建材）の入手経路、および情報撰取に関する課題認識》

《木質化設計を進めるための考え方やアイデアなど》

《情報交換の場の必要性について》

《みなとモデルへの感想、意見、希望など》

## 《木質化に取り組んだ経緯》

- 本計画では、そもそもデベロッパーに当たる親会社において、CSRの観点から木質化のプロジェクトが進んでおり、見えがかり部分における木質化の提案が通りやすい素地があったと思う。
- 担当する物件がみなとモデル制度対象になったことから。よいきっかけになった。
- 当物件の建築設計は8名のチームで行っており、当初は木質化は意識していなかったが、区への建築申請のタイミングで「みなとモデル制度」の存在を知り、木質化にとりくむこととなった。しかし、そのタイミングでは、すでに基本設計は終わっており、木材使用の話が寝耳に水の感じは否めなかった。
- みなとモデルに該当したのがきっかけになったが、みなとモデル制度については事前にメディアを読んで知っており、感銘も受けており、取り組むことになった際も抵抗感はなかった。
- 施工会社の立場で、設計者及び施工者の求めに対して、専門性の高い協力業者として応じてきた。最近では物件を設計する早期の段階からも相談を受けるケースが増えている。

- 施主の意向を汲んで、自然共生型建築物件の設計施工を通じて、革新的な木造建築に取り組んでいる。同時に自社の都市木造化技術開発にも取り組んでいる。具体的な技術として、木造耐火建築技術も実現している。
- 入社して初めて取り組んだ案件で、みなとモデルの存在はその時知ったが、突然の課題にチーム一同正直戸惑った。
- 今後、みなとモデル該当の物件を開発することになり、社内体制もできあがっている。



## 《木質化への思い》

- 個人的にも木が好きだし、社会的意義も感じているので、設計の機会が合えばぜひ積極的に進めていきたい。
- 木質化については、木の素材は好きなので設計士の立場としては使っていきたい。ただし、施主の意向や予算が優先するので、大型建造物で木を積極的に使うことは現状は少ないと思う。
- 今回の経験でみなとモデル制度も理解できたので、早い段階で木質化の検討も織り込めるのではないかと思う。
- 東京生まれ東京育ちだが、母方の故郷に幼少期に慣れ親しんだせいもあり、里山保全などの意義も深く感じるため、都市木質化には積極的でありたい。今後扱う案件においても、積極的に取り組んでいきたい。
- 設計の立場では、木質化は取り組みたいテーマではある。公共の施設であれば必ず木材を使うという流れがあるし、ホテル等のように木を使うことでイメージアップする物件は施主側の理解もあり、目に見える形での木質化がしやすいと思う。

- 入社後すぐに江東区の木質建造物の担当となり、木質建築に触れた。江東区の担当者の木質化への思いにも触れて影響を受けた。
- 和室を設計したときに木質素材の面白さ（部材ごとの固有性）に気づいた。その後の担当物件もいずれも木質化が絡んだ物件（みなとモデル対応物件）である。
- すでに対応方針（OAフロアの導入）も決めており、積極的にすすめていきたい。設計施工の理解も十分にあると感じており問題なく進むと思う。

## 《木質化設計においてこだわった点》

- 建物コンセプトとして「和」の表現ということがあり、木質系材料の表現に間伐材をはじめとした国産材を積極的に使うことが出来た。
- 本計画では、商業施設をはじめとして一般の人が入れる共用部も多く、木も多様な表現をすることが出来た。
- 当物件の担当チームとしては、当初は★1つでクリアする意識であったが、当時、経営層の考え方の中に、「CASBEEのSランク」狙いや「LEEDのゴールド」を狙うといったような機運もあったため、むしろ積極的に取り組むことができ、★2つ、★3つを検討することができた。今回はOAフロア導入の形で★2つが実現できたが、当初はフロア材の中の含有率がまだ高くなかったので★1つレベルだったが、改良もあり結果的には、★2つにできた。
- 施主の創始者の出身の関係で、その地の木材を使っている。

## 《木質化を実行してよかったポイント》

- オフィスフロアからエントランスフロアに降りて来た際に、木のよい香りがしてリフレッシュするという声が聞かれる点。また喫煙室のベンチも木質にし、評判が良い。
- 我々の本業である木工造作で収益を上げることで、技術の伝承と、事業の継続ができている点。
- 設計テーマが「リラックス」だったので、木を使うことを提案につなげられて良かった。
- 人体に優しいと施主に喜ばれている点。

## 《木質化を実行して課題になった、困ったポイント・苦労したポイント》

- 不特定多数が来る施設で木を使用することは、手に触れる部分では管理の面で難しく、手が触れないところで使うことに苦労した。
- 思った通りに木を使えなかった。まず、施主が高級感を要望され、都会における高級感というどうしても石やタイルをイメージしてしまうところがある点でまずハードルがある。
- 担当した病院は産婦人科であったが、感染を避けるために木質を嫌うという雰囲気はなかった。みなとモデルの対象該当物件ということで、木質化を進めることになり、健常者も多いことから木で緩やかな階段を作ろうということになった。ゼネコン発注まで進めたが、設計が進んだ段階で施主から工事費を下げたいとの方針変更があり、階段はスタッフオンリーとなり、木質化は見送られてしまった。
- ウッドデッキ部分はみなとモデル登録事業者の材を使った。施主は反りや割れについては気にしていたが、メーカーが自信を持って勧めていた。

- 港区の高級街という立地の持つ雰囲気との適性や、経営層が白いオフィスを望まれたこともあり、外壁での使用や、内装（階段の手摺やデスクの天板とかも検討はした）への導入までは至らなかった。
- 前例として木の階段を見学したが、摩擦で擦れていたためメンテナンスを考えると、それも導入が難しかった。
- 内装材として使う場合、耐火基準をクリアせねばならず、色の問題、コストの問題などもあり、難しいところ。
- 都市建築では、不燃材でないと内装木質化が難しいが、コストの問題がつきまとう。不燃処理を行う場合、無節が含浸しやすいが、無節素材は割高となり、木質化＝コスト高となっている。
- みなとモデルには限らない話だが、東京都の案件に参加する場合、入札条件として多摩産材を導入しようとする、切出しの林道整備コストまで見積りに含まれることとなっている疑いもあるぐらい価格が高い。
- 使用場所については壁・天井が主で、床材については現実的な使用レベルにないと思う。圧縮材に加工しても現在の比重では床材としての強度の確保は難しい。床材となると外材に頼るしかないと思う。

- 当初は、見えがかりの部位に使用することを事業主に提案をしたが、見積金額が驚くほど高く（2倍～3倍）、他の提案をとということになった。そして、OAフロアでの使用でということになった（※最終的には地下支柱、免震ピット階段等で使用）。
- オーナービルや公共物件を除き、事業主がデベロッパーの賃貸オフィスの場合には経済性で判断されることが多いので（木質化は）難しいと思われる。
- ワンランク上の仕様を考えて計画していた石部材のグレードを下げるなど、木質化による出費をバランスさせたことで、思惑どおりの設計ができなくなるというジレンマも生じた。いずれにしても負担金額が増加することが大きな課題である。
- 社内において「環境意識」についても「木材知識」についても不足を感じる。
- 苦勞した点としては、ゼネコンからの発注が遅れるなか、決められた予算内で仕上げなければいけないこと。
- 都市型建築物はどうしても法規制（耐火）の問題が逃れられず、どうしてもコスト増とならざるをえない。

- 大手デベロッパーはコスト意識が先立ってしまうので、なかなか木質化提案が通らない。内装でというとはどうしても不燃の課題が出てきて、立米当たり100万円ぐらいの差が出てきてしまう。
- 結果的にみなとモデルのような制度があっても、機械室とか免震層、下地材など見えない部分への採用となって本末転倒に流れる感がある。
- 施主が通信関連の大手であったため、ハイテク企業のイメージもあり、できるだけローコストかつ、あまり目に見えるところに木を使うことで華美にならないように、という指示もあり、使いどころが難しかった。結果、床面と下地での使用となった。
- 1年以内に施工が終わってしまう規模の案件であると、設計から材の調達まで含めての期間が木材という素材の調達には難しいように思う。（みなとモデルは5000平米以上という条件があるので、期間の問題は少ないが・・・）
- 不燃材の加工コストやメンテナンスコストがつきまとうこと、および不燃材の白華については導入における課題に感じる。



- テナントビルなので、国産木材を使える箇所があまりなく悩ましかった。2012 年当時、まだOAフロアのような商品もなく、建材も限られていたように思う。
- バルコニーのデッキ材に使いたかったが、施主がデベロッパーさんなので、コストのかかる施工提案は難しく、結果的に不燃処理をしなくてすむ「軒天井」を選ぶというアイデアを思いつき導入にこぎつけた。
- 床暖房の設置の場合を樹種が限られる点

## 《建材情報（特に木質建材）の入手経路、および情報摂取に関する課題認識》

- 建材情報の収集方法としては、インターネットや専門メディア（新建築、日経アーキテクチャー、建築知識など）がメイン、他にショールームやイベント（建築・建材展など）にたまに訪問することもある。直接の営業や、社内で集合型で行われるメーカーのプレゼン会（社内報を通じて案内）から情報を得ることもある。
- 不燃材情報についてはメーカーから随時情報が入ってくるので良いが、その他の建材情報については大変不足している。例えば処理技術の業者は処理技術については詳しいが、木材についての専門家ではない。木材について問い合わせると森林組合などに回されるが、全員が答えられるわけではなく、たらい回しになることもある。
- 現在は専門雑誌、ネットでの検索、経験者へのヒアリングが中心になっているが、網羅性をもった情報でないので、一箇所集中で情報が得られると大変重宝すると思う。
- 建築・建材展などのイベントは、マネジャークラスでない限り出向く余裕はないので、具体的な情報源にはなっていない。

- 例えば、みなとモデル事務局が1箇所建材情報を集めたようなアーカイブを持てば重宝する。みなとモデル事務局が現在持っている、カットサンプルが常設されていれば、必要なケースが出てきた場合には是非見に行きたいと思う。できれば木口断面が見られる状態のサンプル、節の様子がわかるぐらいの大きさのサンプルがあれば尚可。
- 建築専門雑誌、メーカーのホームページ、建築系ではない雑誌（トレンド情報誌などで家具情報に出会う）、メール、建材メーカーのショールーム（原宿アドバンがお勧め）など。
- 建築・建材展などの総合展示会などは、顧客を連れて実際に物を見てもらい説得する際に行くケースあり。逆に顧客に誘われて行くケースもあり。
- 木材の素材情報としては、社内でマテリアルのカタログは充実しているが、素材感を知るためにそのつどサンプルを収集している。
- 実際には気になる素材をネット等で見つけて、メーカーに連絡してサンプルを取り寄せる。木材の技術的文献は少ないように思う。
- 建材情報の経路は、木材と木材以外だと違っているのが実情。木材以外はメーカーの営業が情報をマテリアルセンターに持ち込んでいる様子だが、木材のメーカーさんは来ない。木材については現場の施工会社（ゼネコン）が決めることが多いので、そこに訪問しているのではないかと思われる。理由としては、大型物件と木材の関係が薄いせいもあるように思う。

- 常に木材の情報を意識しているわけではなく、必要に迫られた時に、情報を探し始めるので、今はインターネットを活用することが多い。検索ポータルでフリーキーワードで探したり、アーキテクチャーフォトネット (<http://architecturephoto.net>) というサイトがあり、専門雑誌情報よりもそちらを見ることが多い。
- 専門雑誌「新建築」に新製品ページは見るようにしているので、そういったページへのリリースは有効かと思う。
- 建築建材展のようなイベントにはほとんど足は運ばない。その情報を必要としていない時には忙しいので行く余裕はない。むしろ、事例ベースで見えるものが参考になる。木材会館や、みなとパークなどへの見学は意味が深い。実際、みなとモデルの認証物件である区有施設は見学に行った。区有施設だけでも、どの部分にどんな木材がどのような使われ方をしているのかだけでも情報があれば、時間があるときに勝手に見学ができるので、そういう情報がまとまっていると重宝である。
- 法規対応（不燃・準不燃対応）が難しい。
- 不燃加工材の外部使用時の白華（色落ち）や、スーパーサーモ材の加工による黒化から生じる周辺部とのデザイン調整の難しさを感じる。
- 含浸処理などによる、加工費増、輸送コスト増（含浸工場往復）と、結果的に納期が長期化する点も課題を感じる。

## 《木質化設計を進めるための考え方やアイデアなど》

- 物件によっては、やはりOAフロアなどで木質を行なわざるを得ないのではないかと思う。
- 当建築のテナント内装マニュアルには当建築が「和」にこだわり木を多用していることは伝えている。あえて意図したわけではないが和食飲食店がテナント入りしており、調和が取れており一体感ができている。
- 構造設計時ではなく、むしろ、その後のテナント内装（事務所・店舗）設計時において可能性があるように思う。店舗はもちろんだが、事務所の場合もエントランスや応接室に木を使いたいというテナントはあるように思う。
- テナント内装は、ビルの貸方契約などで、設計と施工がわかれて定まっているケースがあるので、木質建材情報を提案するならば、専門の設計デザイン会社（外資系もあり）へのアプローチが効果的ではないかと思う。（当物件の場合は、テナントの内装デザインについては貸方基準に従って、その他の設計専門会社が行っている。）
- 寝室については和テイストで設計しているので、そこは木質化している。

- 木質化の市場が進むことによって、スケールメリットとしてのコストダウンが図られるよう、公共建築物から先に事例をつくり、施主に木の良さを理解してもらう機会を増やすことが重要だと思う。保育園を耐火木造で作るとか、遊具としての導入も良いと思う。
- 木材の仕入れも、細い木でも集成材とすれば使用可能なので、供給の心配は感じていない。山梨県のような樹齢の少ない地域でも集成材として使用すれば問題がない。
- 不燃規制をうまく合法的に逃れる知恵（1/10ルール、ルーバーの先端部を細くする、排煙ノウハウの採用など）はあるので、それを設計士も含めて認識することで流れが変わるのではないかと思う（そのあたりを理解している設計士は少ない）。みなとモデルとして、それらのノウハウの手引書配布や、勉強会を催すのもよいのではないか。また、見える部分の木質化導引案としては、建築規模によって下地での使用可能の率を変えるようにすれば良いのではないかと思う。
- 設計の提案と、施主の自然施工が相まって実現している。

## 《情報交換の場の必要性について》

- 業者間の交流については、あまり得るものは感じられないが、山側の情報については、都市での木材利用のセンスがわかる生産者とは通じている価値は十分にあると思う。多くの場合、木材の良さの感覚が都会と地方では異なるのを感じる。ただし、森林組合の個別の情報がないので、どこと繋がるのがよいかの判断ができない。地域ごとのセンスや生産可能な量のマッチングができる人がいれば頼りになる。
- 建材製品メーカーと設計事務所が、自然な感じで集い情報交換をする継続的な場づくりには意味があると思う。旬なテーマの講演会や、各社が持回りで新素材情報（チャレンジ情報でも可）のプレゼンをし、それと持寄り型の交流会がセットになっていると本当の意味での情報交換の場になると思う。
- 山側の情報もあってよいが、段階を踏んで交流会のメンバーの顔が知れてきてからのほうが親和性がよいと思う。メンバー構成はざつくばらんな発言ができるということを重視する方が意味深くなると思う。

## 《みなとモデルへの感想、意見、希望など》

- みなとモデルでのCO2固定量の式は明確だが、林野庁、都の式が異なるのは何故か。立木の年生によって固定量が変わるなど、算出が複雑かつ不透明な部分があり、提案する側としては非常に困難である。判りやすい形で統一されないものか。
- みなとモデル製品データベースについては、存在は知っているが、実用性がまだ足りていないように思うので使用していない。改善すれば使えるようになるのではないか。実用性のある情報として「価格、量、納期、不燃（準不燃）の有無」がわかることが重要。各社実績が見られると、上記項目の想定ができるので、みなとモデルデータベースにそのような情報が付加されると良いと思う。また、データベースから各社へのリンクも貼られていた方がよい。
- 延床面積の量に応じた係数の緩和を行うとよいと思う。みなとモデルのように延床面積と使用しなければいけない木材使用量が正比例するルールであると、1万平米ぐらいの物件が木を使う部分の選定にたいへん苦労する。大きくなるにつれて、使用係数を低くするような緩和案を準備するとよい。



- 見えがかり部分での使用に対するポイント付与はどうか。今回、みなとモデルでの木材使用量には計上しなかったが、エントランスに特注家具を導入したところ、木の素材感が伝わって大変よい雰囲気をつくっている。二酸化炭素固定の意味を越えて、木の持つ副次効果もたらされているように感じるので「見える部分での使用」について、さらに評価をし、インセンティブポイントをつけて支援するとよい。
- 木質化のインセンティブ設定も必要だと思う。補助金、税制優遇や、容積率の緩和など、見えがかりでの使用に対しての優遇を港区が特区となって例を示すのも良いと思う。
- 事業主の意識を変えるには、具体的なイメージ画像による惹起が有効に思うので、エントランス等での内部に使う手法の美しい使用事例集を製作するとよいと思う。その際に、平米あたりの価格情報（不燃の場合、非不燃の場合の両方）があれば、なお意思決定が早くなると思う。
- エコプラザが区役所から少し離れているのが少し使いづらい。建築申請などで区役所に行くことがあるので、そのついでに建材情報に触れることができればきっと活用すると思う。